

## メーリングリスト [chouki] における議論

No.	月/日	発信者	頁	内容
2800	5/1	事務局（千馬）	1-2	【ご意見募集】 南海トラフ評価文案（本文のみ） 第 277 回長期評価部会・第 98 回海溝型分科会（第二期）・第 9 回長期確率評価手法検討分科会（第二期）合同会
2801	5/1	加納委員	2	Re: [chouki(2800)] 【ご意見募集】 南海トラフ評価文案（本文のみ） 第 277 回長期評価部会・第 98 回海溝型分科会（第二期）・第 9 回長期確率評価手法検討分科会（第二期）合同会
2803	5/7	岡村委員	2-3	Re:] 【ご意見募集】 南海トラフ評価文案（本文のみ） 第 277 回長期評価部会・第 98 回海溝型分科会（第二期）・第 9 回長期確率評価手法検討分科会（第二期）合同会
2806	5/14	事務局（高木）	3-4	【照会】（ 5/28 締切）日本海中南部の海域活断層の長期評価について
2809	5/20	事務局（千馬）	4-5	
2811	5/21	事務局（千馬）	5	

[chouki(2800)] 【ご意見募集】 南海トラフ評価文案（本文のみ） 第 277 回長期評価部会・第 98 回海溝型分科会（第二期）・第 9 回長期確率評価手法検討分科会（第二期）合同会  
 発信者：事務局（千馬）

長期評価部会・海溝型分科会・長期確率評価手法検討分科会 委員の皆さま  
 平田委員長

お世話になっております。  
 文部科学省地震火山防災研究課 千馬です。

本日の長期評価部会・海溝型分科会（第二期）・長期確率評価手法検討分科会（第二期）の合同会へのご出席ありがとうございました。

本日の議題 3 海溝型地震の長期評価についてご紹介させていただきました、  
 ・参考資料 4-1 南海トラフの地震活動の長期評価（第二版 一部改訂）主文のみ  
 ・参考資料 4-2 南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）の一部改訂案（前回との差分）  
 についてですが、同合同会にてご説明したとおり、ML でも意見を募集したいと考えております。

なお、今後表現については細かい修正が入る可能性が高いです。  
 ですので、今回は文章の構成・方向性や追加・削除したほうが良い図などの大枠部分についてご意見をいただけたら幸いです。  
 細かい誤字脱字などは、本文が完成したのちにもう一度諮らせていただければと思います。

にあります、  
 ・長 277 海Ⅱ98 長手Ⅱ9 参考資料 4-1\_南海トラフの地震活動の長期評価（第二版 一部改訂）主文のみ.pdf

・長 277 海Ⅱ98 長手Ⅱ9 参考資料 4-2\_南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）の一部改訂案（前回との差分）.pdf  
をご覧ください。

ご多忙のところ恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

---

[chouki(2801)] Re: [chouki(2800)] 【ご意見募集】 南海トラフ評価文案（本文のみ） 第 277 回長期評価部会・第 98 回海溝型分科会（第二期）・第 9 回長期確率評価手法検討分科会（第二期）合同会

発信者：加納委員

千馬さま，部会・分科会の皆さま

加納です。

大枠部分とはいえないかもしれませんが，主文の 2 ページ下から 4 行目（スライド 2 枚目）の

今回は，従来の地震時の地殻変動の観測値を用いた時間予測モデルから，その観測値に幅があること（不確実性があること）と観測誤差があることを考慮して

の「地殻変動の観測値」は違和感があります。

- ・史料からの情報は（現代的な）「観測」「観測値」とは意味合いが異なる
- ・実質的には（室津の）隆起量だけ

と考えるからです。

これまでの資料のことばだと，「隆起量データ」が対応すると思います。

第二版では「室津港（高知県）の隆起量」や，「地殻変動のデータ（室戸半島先端の室津港の潮位観測データ）」などとなっています。

文言については今後修正があると思うのですが，案としては

今回は，従来の地震時の室津港（高知県）の隆起量を用いた時間予測モデルから，その隆起量の推定値や観測値に幅があること（不確実性があること）と誤差があることを考慮して

などとするのはどうでしょうか。

---

[chouki(2803)] Re:] 【ご意見募集】 南海トラフ評価文案（本文のみ） 第 277 回長期評価部会・第 98 回海溝型分科会（第二期）・第 9 回長期確率評価手法検討分科会（第二期）合同会

発信者：岡村委員

千場様，皆様

岡村です。

評価文の「5. 今後に向けて」についてコメントをお送りします。

南海トラフでは多様な地震が発生してきたことは明らかですが、多様な地震が発生するメカニズムを解明することが、長期評価の精度を向上させるために不可欠だと考えています。瀬野さんが2012年に宝永型と安政型が独立に繰り返していると提案され、私もその論文に触発されて宝永型と安政型が発生するメカニズムを提案したことがあります。それらの考えを長期評価に取り入れる段階ではないと思いますが、異なるタイプの地震がそれぞれ繰り返すことによって多様な地震が起こっている可能性が明らかになってくれば、南海トラフの長期評価の考え方も大きく変わると思います。

具体的な修正案として、最初の「過去に起きた地震像を明らかにするための調査研究の推進」の中で過去の「地震像を明らかにする必要がある。」という部分を「地震像を明らかにし、多様な地震の中に複数のタイプが存在するか検証する必要がある。」と変更するのはいかがでしょうか？

ついでですが、上記の部分の後ろに「最大クラスの地震が過去に起きていたか否かは、極めて重要な情報である。」とありますが、これが「極めて重要」とは思えません。そもそも「最大クラスの地震が過去に起きていたか否か」を証明することも否定することも不可能でしょう。そこに労力をかけるより、異なるタイプの地震の有無を検証することの方が価値があると思います。

以上、ご検討をお願いします。

---

[chouki(2806)] 【照会】(5/28 締切) 日本海中部の海域活断層の長期評価について  
発信者：事務局(高木)

地震調査委員会・長期評価部会・海域活断層評価手法等検討分科会  
委員各位

文部科学省の高木です。  
お世話になっております。

日本海中部の海域活断層の長期評価について現時点版を照会いたします。  
以下のURLに評価文・ポイント・概要を置いておりますので、ご確認いただければ幸いです。

評価文：日本海中部の海域活断層の長期評価(第一版)(案)0513.pdf  
ポイント：日本海中部の海域活断層の長期評価(第一版)のポイント(案)0513.pdf  
概要：日本海中部の海域活断層の長期評価(第一版)の概要(案)0513.pdf

ご意見等は同じ場所においてあります【0513版用】日本海中部評価文意見フォーマット.xlsx  
にご記入の上、

【5月28日(水)中まで】に高木(takagi-y@mext.go.jp)と千馬(r-semba@mext.go.jp)宛にご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

【0513版用】日本海中部評価文意見フォーマット.xlsxは評価文・ポイント・概要でシートを分けておりますので、該当シートにご記入ください。

地震調査委員会委員各位

5月13日の地震調査委員会ではご議論いただきありがとうございました。  
今回照会する評価文・ポイント・概要は基本的に昨日の委員会資料と同様です。  
概要の8ページ目「評価の信頼度向上のために取り組むべきこと」の2点目の脱字のみ修正しています。

長期評価部会・海域活断層評価手法等検討分科会委員各位委員各位  
5月1日の長期評価部会に資料として提出した版

(海域活断層評価手法等検討分科会委員におかれましては、4月30日にメーリングリストで照会した版と同様)

からの修正箇所につきましては、同フォルダの「日本海中部の海域活断層の長期評価(第一版)(案)0513\_0501 版からの変更履歴付き.pdf」を参照ください。

お忙しいところ、恐れ入りますが、どうぞよろしくお願いいたします。

[chouki (2809)]

発信者：事務局（千馬）

長期評価部会 委員各位

[Redacted content]

[redacted]  
[redacted] [redacted]  
[redacted] [redacted]

[redacted]  
[redacted]  
[redacted]  
[redacted]  
[redacted]  
[redacted]  
[redacted]

---

[chouki (2811)] [redacted]  
[redacted]

発信者：事務局（千馬）

長期評価部会 委員各位

[redacted]  
[redacted] [redacted]

[redacted]  
[redacted]

[redacted]  
[redacted]  
[redacted]  
[redacted]  
[redacted]  
[redacted]

[redacted]  
[redacted]

[redacted]

以 上